

# 企業不祥事の心理学 - ウソが許されない時代のリスク管理術 -

和田秀樹 著、PHP研究所、173 頁

ISBN 4-569-62539-8 (定価 1,150 円 + 税) 2003 年 1 月 8 日発行



## 〔目次〕

はじめに

序 章 企業不祥事はあなたの問題である

第 1 章 生活を一変させる「時代の大転換」をつかめ

第 2 章 六つのタイプでわかる“ウソのカラクリ”

### 【基礎編】

第 3 章 内部告発の心理学

第 4 章 六つのタイプでわかる“ウソのカラクリ”

### 【リスク管理編】

著者は、ウソやミスは人間社会につきまとう普遍的なものであり、どんな組織においても「人間が営むものである以上、ウソやミスは必ずついて回る」と明言している。このため、人間関係や社会の中でウソやミスに対する習慣的なルールや、それに対する「常識的な」対応ができあがっているとしている。

しかし、最近のウソやミスによる企業不祥事が注目されるのは、メディアと社会が以前とは比べものにならないくらい厳しく反応していることが従来と大きく違う点であると指摘している。これまではウソやミスに対して「常識的な」対処で何とか済まされたものが、企業がウソをついたり情報公開が不十分というだけで企業の屋台骨が揺らいでしまう。では、どうすべきか。本書は精神科医が提示する企業人のためのリスク管理術を説くものである。

企業がつくウソを、著者は「自己防衛型ウソ」「秘密型ウソ」「体面保持型ウソ」「ウソも方便型ウソ」「誰かをかばうための義理人情型ウソ」そして「利益追求のための積極型ウソ」の 6 つのパターンに分類している。この 6 つに分類されるどんなウソも、隠したい事実を正直に明かした場合のペナルティーより、ウソがバレたときのペナルティーのほうが、ずっと大きいことを実例を挙げて分かり易く説明している。

「会社に忠誠を誓うより、消費者を向いたほうが、人生はよい方向に進む」という内容は、「当たり前のこと」ではあるがなかなか実行できない。本書は、ウソやミスのメカニズムを知ることによって、反応が変わってきた周囲に対して、冷静に「当たり前の」対処ができるようにする知恵を授けてくれる。